

## シンポジウム開催の趣旨

現在、食料価格の高騰が世界各地で深刻な社会問題を発生させています。そこには、食料への投機、早ばつなどの自然災害、食料の世界的な需要増、食資源のバイオ燃料化などの根深い原因があり、食料高価格時代は長期化するといわれています。

食料をめぐる激しい争奪戦が強まり、先進国で最も食料自給率が低い、日本の「食料の安全保障」が危うくなる事態が危惧されています。また、食料を外国に依存することによって、日本の食の安全と安心が脅かされるという事態が頻発しています。その一方で、日本の食料事情は複雑な状況におかれています。食の簡便化や低価格化という流れと、健康を志向した高付加価値化やブランド化の流れなど、消費者のニーズは多様化しています。さらに「フードマイルージ」のように、環境保全の立場から輸入食品へ依存する体質を見直す動きも強まっています。低下した食料自給率の向上は喫緊の課題ですが、食料生産を支える我が国の農漁業は、高齢化、後継者難や石油、肥料や飼料の値上がりなどで苦境に立たされています。

このような現状を打開するために、広島大学も有効なアクションを求められています。とりわけ、食料・生命・環境を専門領域とする大学院生物圏科学研究科は、その先導を切り開く責任があると自覚しています。

そこで本研究科では、幅広い方々のご協力をえて食料問題に関するシンポジウムを開催します。このシンポジウムでは、広い視野から食料危機の構造を認識するとともに、瀬戸内圏を再生する立場から「食料の安全保障」と「食の安全・安心」の実現に向けた方策を探りたいと思います。

## プログラム

### 第1部 アジアの食料戦略

10:30~11:30 (中央図書館ライブラリーホール)

司会 山尾 政博氏 (広島大学大学院生物圏科学研究科教授)

○開会挨拶 江坂 宗春氏 (広島大学大学院生物圏科学研究科長)

○特別講演 Saroj Aungusmalin博士 (タイ、カセサート大学経済学部長)

「食料危機下におけるタイの食料輸出戦略-日本食料市場向けの輸出ビジネスの動向を中心に-」

### 第2部 日本の食と農はどうなるのか?

13:00~14:00 (サタケメモリアルホール)

司会 佐藤 清隆氏 (広島大学大学院生物圏科学研究科教授)

○挨拶 浅原 利正氏 (広島大学長)

○基調講演

「日本の食と農の現状とこれから」

関岡 英明氏 (農林水産省中国四国農政局長)

○基調講演

「ムラは問うー中山間地域の実情を踏まえ、食と農をどう結び直す」

山城 滋氏 (中国新聞社論説主幹)

### 第3部 里山・里海・里食のフロンティアから

14:10~16:25 (サタケメモリアルホール)

司会 田中 秀樹氏 (広島大学大学院生物圏科学研究科教授)

○「農産物の高機能化戦略と植物乳酸菌」

杉山 政則氏 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授)

○「食と農の明日ー地域資源の活用と食料自給率の向上」

武藤 徳男氏 (県立広島大学生命環境学部教授)

○「イノシシ大発生を通して見る食料問題」

谷田 創氏 (広島大学大学院生物圏科学研究科教授)

○「食と農を地産地消で結ぶ」

村上 光雄氏 (広島県農業協同組合中央会)

○「広島県の漁業は生き残れるのか？」

廣畑 裕一郎氏 (大野町漁業協同組合)

○「耕して天に至る島-大長みかんのふる里大崎下島・豊町の苦悩と挑戦-」

前田 義信氏 (呉市役所市民部豊市民センター)

○「6次産業ネットワークによる地域づくり:世羅町」

後 由美子氏 (世羅高原6次産業推進協議会コーディネーター)

○「地域文化をブランドへ-消費者と生産者をつなぐ"お互い様"-」

山本 正克氏 (NPOやまなみ大学地域自立支援センター、北広島町)

### 第4部 総合討論

16:40~17:30 (サタケメモリアルホール)

司会: 佐藤 清隆氏 パネラー: 関岡 英明氏、山城 滋氏、田中 秀樹氏